



参考

平成29年10月6日

堺市長 竹山 修身 様  
堺市教育委員会 様

堺市西区教育・健全育成会議  
会長 楠 玲子

## 平成29年度西区教育・健全育成会議 中間報告について

平成29年4月26日付、堺西企総第147号で審議依頼された事項について、これまでの検討結果を中間報告として、以下のとおり取りまとめたので報告する。

### 1 経過

計4回の会議を開催（4月26日、5月31日、6月30日、8月31日）

※ 6月30日は、西区選出の堺市議会議員との意見交換会を併せて開催

### 2 審議事項

家庭・地域における教育・健全育成の取組み(地域力を活かした家庭教育の充実)について

### 3 審議の内容

過去2年間、西区の地域力を活かし、家庭における課題の解決をはかることを中心とした審議を行い、「家庭と地域のきずなづくり」につながる取組み等に関する提言を行った。

今年度は、審議テーマをさらに絞り込み「家庭教育の充実」に向けた取組みについて、地域で芽生えつつある具体的な活動(保護者座談会、子どもの居場所づくりの取組み等)を参考とするなどし、より多くの保護者に効果を及ぼすこと、地域における支援の輪を広げていくことを中心に、更に議論を深めるべく審議を進めた。

#### ■現状と課題（課題解決に必要な取組み検討にあたって）

##### (1) 家庭(保護者・子ども)の現状と課題

近年の共働き世帯の増加、核家族化の進行等により、個々の家庭だけで家庭教育を行うことは難しくなっており、主に行政や地域の人々により家庭を支援する取組みが行われている。

しかしながら、子育て世代の家庭は、周囲との関係が希薄になりがちで、家庭の状況が外部から見えづらい傾向もあり、支援の取組みが家庭に届きづらいということが大きな課

題となっている。

## (2) 地域においてみられる現状と課題

地域において家庭教育の充実に向けての新しい取組みを始めるためには、支援者となる人材が必要であるし、それを継続していくためには、地域における理解や支援者同士のつながりの輪を広げていくことが重要となる。

しかし、中心となるような人材が見つからない、既存の人々のつながりを教育・健全育成に活かしていないなど、地域において取組みを進めていく上での様々な課題がみられる。

### ■地域力を活かした取組みを通じ家庭教育の充実をはかるために必要であること

#### (1) 取組みと家庭との接点づくり

家庭教育の充実をはかる取組みは、保護者や子どもに理解し興味を持ってもらう、あるいは、参加してもらうといった、家庭との接点がなければ効果を望めない。

そのためには、取組みを知ってもらうためのPR方法の工夫等はもちろん、実施する取組みに興味を惹くようなテーマを設定する、魅力的なイベント、学校行事等と組み合わせるといった工夫、仕掛け等が必要である。

#### (2) 地域における支援の輪づくり

家庭教育の充実をはかる取組みは、小さなものからでも良いので、実際に始めること、その上で、地域において支援に関わる人々の輪を広げていくことが重要である。

また、始められた取組みを継続していく過程において、地域の人々の理解・協力を得ながら、地域への定着がはかれることも望まれるが、そのためには、活動意欲を持つ人材の発掘、取組みを始めるきっかけづくり、周知活動・参加の呼びかけ、既存の支援者の意欲の維持に係る様々な工夫、仕掛け等が必要である。

## 4 提言に向けての今後の議論

今後は、さらに地域の取組みなどの現状分析を進め、地域の特性や強み、弱み等を考慮した家庭教育の充実をはかる取組みに関する議論を深めていく予定である。

最終的には、この中間報告の内容を全体の骨格として、西区における、家庭と地域のきずなづくり、西区の教育・健全育成の充実につながる提言を行いたい。